

Market Flash

発表日: 2019年6月28日(金)

- ・斑模様でも増産(鋳工業生産)
- ・不気味な米新規失業保険申請件数

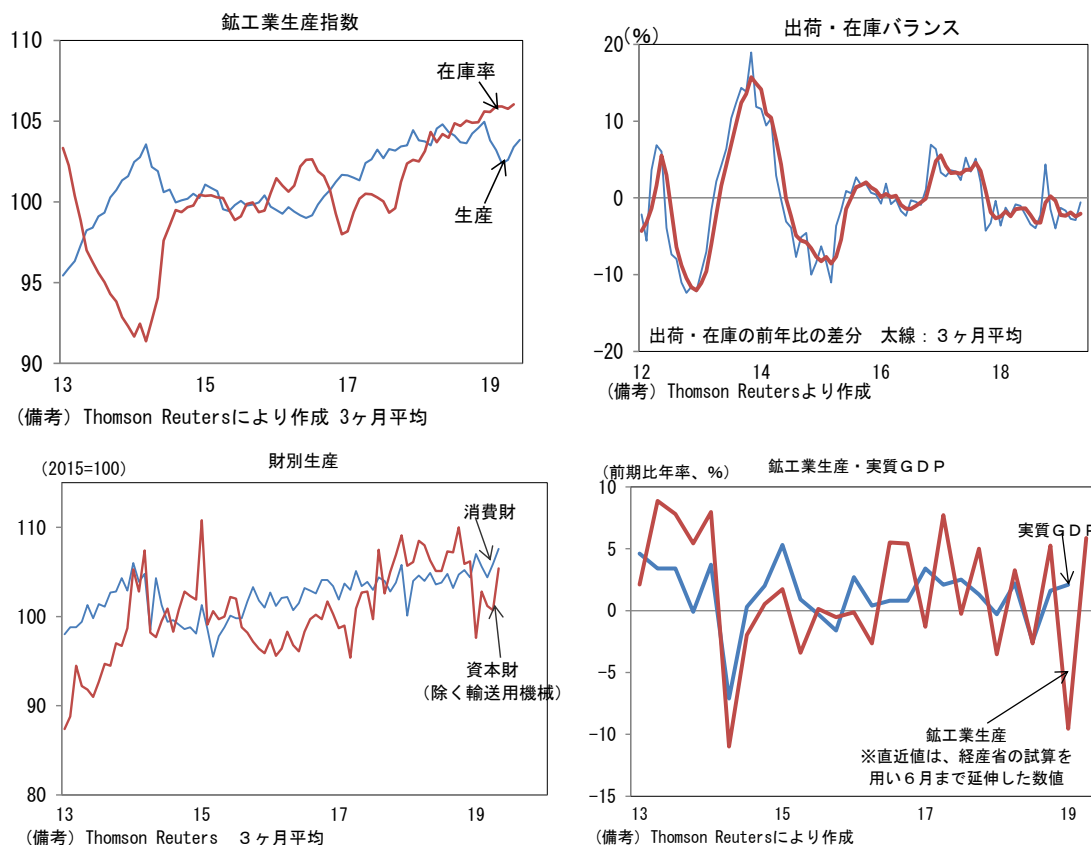
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は23000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは米利下げ観測が浮上する中、先行き12ヶ月で105へと下落しよう。
- ・日銀は現在のYCCを2020年末まで維持するだろう。
- ・FEDは年内利下げに転じる見込み。

< #鋳工業生産 #失業率 #米新規失業保険申請件数 >

- ・5月鋳工業生産は前月比+2.3%と、市場予想(+0.6%)や経産省試算(+1.5%)を大幅に上回り、2ヶ月連続増産。10連休に伴うカレンダー要因で季節調整が歪み、強さが誇張されている印象だが、それでもヘッドラインの改善はポジティブ。50を割れている製造業PMIとの比較で違和感が残るものの、不可解なほど弱かった1-3月期からの反発は確認できた。生産の4-5月平均は104.0と、1-3月期平均の102.4を年率+6.5%上回っている。
- ・出荷は前月比+1.6%、在庫は+0.6%、在庫率は+1.6%であった。在庫率が高水準から一段と上昇した反面、前年比でみた出荷・在庫バランスは改善傾向にあり強弱区々。5月の実質輸出が前月比▲4.4%と弱く、一進一退の状況にあることに鑑みると、輸出主導で生産が上向く展開は期待しにくい。しかし、その一方で堅調な国内向け出荷を踏まえると、意図しない在庫が積み上がり、減産に追い込まれる状況ではなくつつあると言えるだろう¹。底堅い個人消費と設備投資を背景に、消費財(前月比+1.6%)と資本財(除く輸送用機械、前月比+5.2%)の生産が堅調に推移している。
- ・生産予測調査によると6月は▲1.2%、7月は+0.3%であった。これを基に経産省が独自に試算した6月の生産は▲1.7%であるから、このとおりに着地すれば、4-6月期は年率6%程度の増産となる。四半期ベースの増産がほぼ確実な状況といえる。GDP統計との乖離は、均してみれば解消に向かうだろう。

¹鋳工業出荷内訳表は7月5日公表予定。鋳工業出荷指数と貿易統計(輸出)を用い、鋳工業出荷全体を「輸出向け出荷」及び「国内向け出荷」に分割したもの。19年入り後は、輸出向けが低調な反面、国内向けが堅調に推移している。



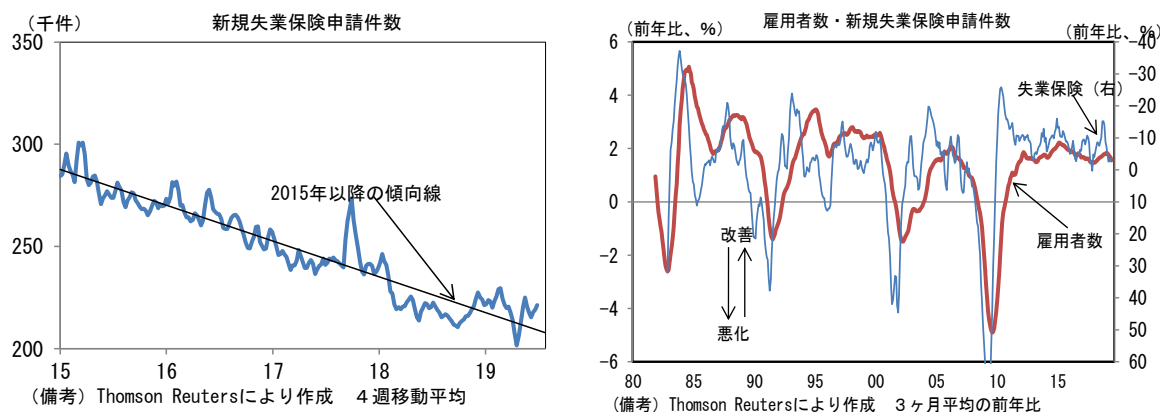
- ・ 5月失業率は2.4%と4月から不変、歴史的低水準を維持した。ただし、主要項目のバランスは悪い。就業者数が2ヶ月累計で38万人減少すると同時に、非労働力人口は同期間に42万人増加した。

【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・ 日本株は小幅安で寄り付いた後、やや水準を切り下げている（11：00）。鉱工業生産が好感された反面、米中首脳会談の結果を見極めたいとの思惑から買いが手控えられている。

【欧米経済指標他】

- ・ **米新規失業保険申請件数**は22.7万件へと前週比1.0万件増加。4週移動平均では22.1万件と、2015年以降の傾向線を明確に上振れている。前年比でみた減少ペースは1桁台に落ち込み、雇用統計NFPの減速を示唆。5月雇用統計の弱さが一時的現象との見方に疑問を投げかけている。



【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株はまちまち。G20サミットにおける米中首脳会談を控えて売り買い交錯。WT I 原油は59.43^{ドル}（+0.05^{ドル}）。
- ・前日のG10通貨はUSDとJPYとEURが横ばい。USD/JPYはアジア時間に日経平均の上昇を横目に水準を切り上げた後、欧米時間入り後は米長期金利低下に歩調をあわせ上昇を帳消しにした。
- ・前日の米10年金利は2.014%（▲3.3bp）で引け。米中首脳会談を控え様子見姿勢が強いなか、月末需要もあり金利低下。欧州債市場（10年）はドイツ（▲0.320%、▲1.7bp）、フランス、イタリアが金利低下。スペインは概ね横ばい。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。